

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

スーパースター大谷翔平選手が突然、スキャンダルに巻き込まれました。時系列は皆さまのご存知の通りですのであえて触れません・・・。

しかし、信頼していた人物に裏切られ、ウソをつかれていた事実には大谷選手の心中穏やかではないでしょう。

さて、この仕事（税理士業）に長年携わっていると「ウソつき」に遭遇する事は多々あります。



あるときは、会社のお金を従業員が数千万横領・・・ある時は詐欺師に騙され会社のお金を数千万流用・・・前者は横領した本人（従業員）に経営者、税務署などと共に質問すると「ビックリするようなウソ」を返されました。後者は銀行も事務スタッフも私（税理士）もあなたは騙されていると親切にアドバイスしても当の本人は相手のウソを信じて私たちは何も知らない余計なお世話だと思っています。

歳を重ねると・・・人間の本质が性善説より性悪説が正しいのではないかと思うようになり、悲しい気持ちになります。

“ウソ”つき相手をするお仕事

本書の冒頭で「弁護士の仕事は紛争（もめごと）の解決です」でスタートしました。タイトルは「弁護士が教えるウソを見抜く方法（深澤諭史著、宝島社）」です。



「なぜ弁護士がウソを見抜くプロなのか・・・」との問いに著者は、「もめごと」の解決の際、相談者から多くのウソをぶつけられたからと言います。

弁護士として仕事の受託の第一歩が「相談者がウソをついていないかチェックする事であり、ウソを見つけることが、真実にたどり着く事の表裏一体との事ですから・・・」と著者が言いますが、表向きには華やかなイメージがありますが大変なお仕事のようにです。

ある大学には「法律相談部」というサークルがあり現役の弁護士が指導するのですが、最初に指導受けるのが「相談者はウソをつく」だそうです。悲しい現実ですね・・・。

ウソとは何なのか

ちょっと難しい話になりますが・・・、法廷で証人がウソをつくると「偽証罪」になります。そこで「偽証」が何かを理解する事が「ウソ」の本质になります。

裁判所の見解では「記憶と違う事」を言うのがウソとなり、間違（思い違い？）を言う事はウソにはならないようです。微妙な感じですが・・・、意図して、自分の認識（記憶）と違い事を他人に言う事が「ウソ」と言う事ですね。

つまり、「ウソ」と「間違い」で対応が異なるのです。ある人の「これまでの人生」をお聞きする事が皆さんもあるでしょう・・・。何度かお話

していると数か月前に聞いた話と設定が違う事が多々あります。

筆者によると「記憶通りに話しているがその



の記憶に間違い(上書き、改編)があるだけで」当人はウソをついている認識もなく、また法律上はウソでは無いようです。。

実害がないなら、そのような人の話はただ聞き流せば良いだけです。ただし、これから付き合いたいかと問われると。。遠慮したいと思いますが(笑)。

ウソをつく動機

ウソをつくきっかけはケースバイケースでしょう。しかし、筆者によると「ウソをつく事によって得をしたい」又は「ウソをつく事によって不利益を避けたい」という心理があると言います。だからこそ「自分に不利なウソ」はつかないようです。

資本主義の社会においては、どんな人にも経済的に得をするため「ウソをつく動機は」いくらでもあります。仕事の場面で自分のために都合の良い決定を相手にしてもらったために多少のウソ(方便?)を言った事は私も含め皆さんも経験されているでしょう。。

このように、普通の人がウソを言うのには、そのウソを検証する事が困難で時間がかかるため、多くの場合に簡単にウソが通じてしまうからだそうです。つまり「ウソをついた事で

得をした」という成功体験(?)がそうさせるようです。

ウソを見破る方法

ウソをつく人は「言い訳」も事前に準備しています。だからこそ、追いつめても「私はウソをつきました」とは簡単に白状しません。では、プロ(警察や検察官、弁護士)はどのようにして白状(告白)させるのでしょうか。。

結局は本人に話しをさせるのが一番のようです。言い訳を周到に準備していても、想定外の質問が出ると動揺します。また、とっさにウソを重ねても、話の流れに矛盾が生じます。「知らない」、「忘れた」、「答えられない」等々、自分が不利になると雄弁(嘘つきの大半)から急に無口になるようです。

最後に、著者からの「ウソをつく人の」特徴をアドバイスして頂きます。

- ①質問と答えが一致しない(論点をずらす)。
- ②端的に答えず、聞かれてもいない事を延々と話す。
- ③本人の意見を聞いているのに「普通の人」などと他人にすり替える。
- ④自分の意見ではなく、権威ある(著名人、パンフレット)ものを根拠に話す。
- ⑤自分サイドではなく、反対側の性格や評判に話しをすり替える。
- ⑥客観的事実より自分を信じて欲しいと要望する。

嘘をずっと押しとおそうと思う人は、記憶がよくなければならない。

グリム(童話作家)

編集後記：

最初に私も「ウソ」つきと仕事で関わった話をしましたが、税務署サイドに言わせると「納税者は必ずウソをついている」との前提で税務調査をするようです。悲しい事ですが税務調査の歴史はウソつきとの闘いなのでしょう。。大谷選手も信頼している身近な人がウソをつき信頼を裏切るという最悪な経験を通して、人間としてひと回りもふた回りも成長するに違いないでしょう。また、そうあって欲しと願います(寿)。